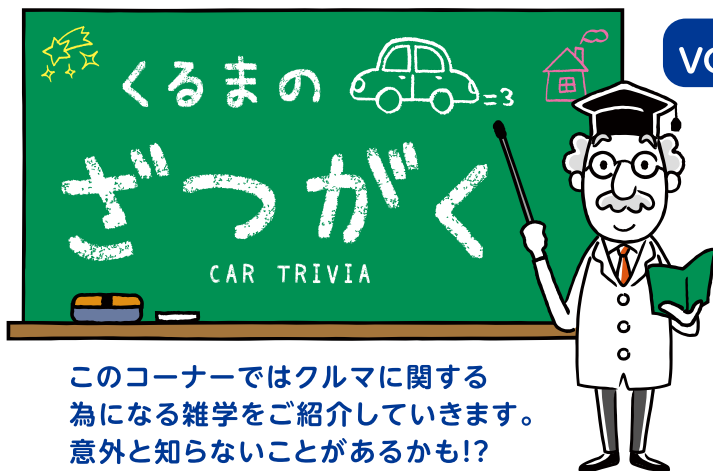


VOL.25 あまり乗らない車は調子が悪くなるって本当?



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

年式のわりにたくさんの距離を走っているクルマは、過走行車として売却時の査定を受けるときに不利な扱いになってしまいます。クルマというのは機械なので、使えば使うほど劣化をしていくと考えるのが普通だからです。それなら、走行距離はなるべく少ない方がいいのかというと、必ずしもそうとは言えません。なぜなら、年式に対して走行距離が極端に少ないクルマも、調子が悪くなってしまうことが多いからです。たまにしか乗らず「走行距離が少ない=状態の良い車」であると考えるのは大きな間違いなのです。それではなぜ、クルマは乗らないと逆に調子が悪くなることがあるのでしょうか?

1 走行距離が極端に少ない車は良いクルマ?

一般的にはクルマの走行距離は1年あたり1万kmが目安だといわれています。つまり、5年落ちのクルマであれば、5万km程度の走行距離が普通です。これが同じ5年落ちでも10万kmや12万km走行したクルマになると、過走行車ということで中古車としての価値が下がってしまいます。それとは反対に、3万km程度の走行距離であれば「年式の割にあまり走っていないクルマ」ということで価値は上がります。

それでは5年落ちで、走行距離が5千kmや1万kmといった、極端に走っていないクルマの場合はどうでしょうか?年式の割に圧倒的に走行距離が少ないので、中古車の価値としては高いというように考える人もいるでしょう。しかし、クルマに詳しい人であれば、走ってなさすぎるクルマも警戒します。クルマは動かすことを前提として作られた機械であるということを考えた場合、単純に走行距離が少なすぎるクルマを良い車として評価をすることはできないからです。あまり乗られていないと、むしろクルマが劣化してしまうということもあるのです。1カ月に1度か2度レジャーのために使うクルマよりも、通勤で毎日のように走らせているクルマの方がずっと調子がよかったです。



2 車を長期間放置しておくとうなるの?

たまにしかエンジンをかけないクルマは、ドライスタートを繰り返し、シリンダー内が摩耗している可能性があります。ドライスタートとは、長期間の放置でエンジンオイルがシリンダーからオイルパンというエンジンの最下部に溜まってしまい、エンジンをかけたばかりのわずかな時間、エンジンオイルがシリンダー内に無い状態で、シリンダー内部のピストンが上下運動をし、金属と金属が直接こすれ合ってしまう状態のことです。金属と金属が直接こすれ合うため、摩耗しエンジン内部に劣化が生じます。たまになら問題はありませんが、これを何度も何度も繰り返すと、シリンダーの圧縮が抜けてしまい、パワーダウンの原因になります。

2年間放置したクルマの状態 一例

- ラジエーターのホースがすべて裂け、冷却水がダダ漏れ。
- ファンベルトの劣化がひどく、切れる寸前。
- タイヤ全体にひび割れがひどい状態。
- ブレーキホースが裂け、オイルが漏れだしそうな状態。
- ガソリンタンク内はサビだらけで、フィルターも詰まってしまって、使えない状態。
- プラグコードが腐ってしまい、断線寸前。
- バッテリーは完全に放電してしまい、使えない状態。

3 あまり乗らないクルマのメンテナンス方法

レジャー目的などで購入し、普段あまり乗らないクルマは、どのようなメンテナンスをして良い状態を維持したらいいのでしょうか?実はそんなに難しく考えることはなく、クルマを時々動かしてあげることが、一番のメンテナンスになるのです。最低でも1週間~2週間に1度程度はエンジンをかけ、近所まわりを軽く走らせるだけでも十分に劣化防止になります。また、エンジンオイルなども距離数はさほど走ってなくても、時間の経過により劣化するので、1年に1回程度は交換したほうが良いでしょう。また、ガソリンには特に使用期限のようなものはありませんが、半年ほど経つとかなり劣化が進んでしまいます。あまり乗らないクルマの場合は、10リットルや20リットルずつこまめに給油をするようにした方が、クルマのためには良いと思います。